

益田+景観

Masuda PLUS+ Keikan



【飯浦漁港の風景】

CONTENTS

【特集】漁村の風景を訪ねて

平成 23 年度益田市景観ワークショップ p. 2

海と共に生きる漁村景観 p. 3

景観を支える人たち p. 4

*NPO 法人久城伝承文化顕彰会

*安田地域づくり協議会

「益田+景観」冬号では、「平成 23 年度景観ワークショップ第 2 回」を特集！第 2 回は、11 月の飯浦地区へ漁村景観を訪ねました。

【海と共に生きる漁村景観】では、漁村景観、海の周辺の景観の見所ポイントを掲載しています。

【景観を支える人たち】では、NPO 法人久城伝承文化顕彰会、安田地域づくり協議会を取材し、地域の「花」という景観資源を育む活動について伺いました！

今号は、日本海が育んだ益田の海の景観の魅力をぎっしりと詰めてお届けします。

【特集】

漁村の風景を訪ねて

平成二十三年年度

益田市景観ワークショップ第二回



ワークショップ第二回は、漁村飯浦を対象に開催しました。小雨の降る中で、開催となりましたが、海の近くならではの少し潮の香り漂うしっとりとした空気を感じながら、飯浦の景観を堪能しました。

まちを歩く

参加者は班に分かれ、まちを歩きながら飯浦の魅力的な景観、残したい景観を探しました。飯浦は半農半漁、つまり漁村の特徴と農村の特徴を両方を持ち合わせた集落です。参加者はまちを歩いている中で、海辺の景観だけでなく、畑や山の広がる風景も発見しました。第一回と同様、気に入った景観があれば、写真額縁を使って構図を考え、カメラで撮影していきます。高台に昇り、海と赤瓦の雄大な風景を撮った班もありました。また、参加者は目に訴えるものだけでなく、音や匂いなど、五感をフルに使って景観を感じ取っていました。

グループ ディスカッション

まち歩きから帰ると、班ごとに撮った写真を見ながら、飯浦の景観の魅力と課題について整理しました。その後、魅力を伸ばし、課題を解決するための提案を考えていきました。たくさん出た提案の中から、特に他の班に紹介したい案を3つに絞りました。最後は、その3つの提案を短冊用の画用紙に書いて、参

加者自身が会場全体に発表しました。写真撮影会開催という提案だけでなく、マップ作成といった見所を紹介する提案、子どもと一緒に鋲（きり）づくり、路地でかくれんぼ、楽しみながら景観を体験する提案など、様々なアイデアが出ました。

ワークショップを終えて

今あるものの魅力に気付くこと、それをできるだけ多くの人と一緒に確認していくことが、景観を守ることの第一歩になります。

また、景観を守る・活かす方法も、「助成金を出す」などの行政サイドからのものだけでなく、一般市民が今すぐ楽しみながらできることもたくさんあります。今回のワークショップの参加者は、そういった点に気が付き、景観を守り、育てる第一歩を踏み出したのではないのでしょうか。みなさんも、身近にある景観の魅力、楽しみ方を身近なところから広げてみてはいかがでしょうか。



テーブルディスカッションの様子



最後の全体発表の様子

第二回益田市景観ワークショップ

【日時】平成二十三年十一月十九日（土）

【参加者】三十一名（十学生十名）

【会場】飯浦ふれあい福祉会館

漁村景観
の特徴って
何だろう？

海と生きる漁村景観

益田には、日本海の漁業と人々の生活が強く結び付いた漁村が数多く存在しています。湾沿いにある集落には、海と人々が共に歩んできた歴史が積層され、漁村特有の景観が生まれています。ここでは日本海の荒波を背にした、漁村景観の特徴を紹介します。

海が育む景観

建物だけでなく、海に浮かぶ漁船の群れ、季節ごとに違う海産物を干す風景なども漁村の活気を感じさせる景観です。また、海岸を歩けば、波に削られた岩肌を目にすることができ、自然の力強さを感じます。

目で感じる景観だけでなく、潮の匂い、波音や海鳥の鳴き声も、漁村景観を生み出している重要な要素です。

海と生きる知恵

多くの漁村では、建物が密集して建ち、赤瓦の家が列状に並ぶまちなみを見ることが出来ます。これは建物を守るための工夫で、海岸沿いに隙間なく家を建てることで、まちの中に強風が吹きこむのを防いでいます。建物の連なりは、時に山や湾などの地形と一体となり、場所ごとに違う景観を創り出します。

漁村の家並みからは、家同士が相互に関係を持ちながら寄り添い、人が海、大地と共に生きてきた歴史を感じることが出来ます。



- 1 漁村の風景（小浜）
曲がりくねった道に連なる赤瓦の家並
- 2 路地の風景（津田）
漁村特有の板張りの壁に挟まれた狭い路地
- 3 イカがある風景（飯浦）
10月初旬にみられるイカを干している風景
- 4 恵比寿神社（小浜）
荒々しい海の中に現れる神秘的な神社
- 5 路地裏の猫（飯浦）
路地に迷い込んだ猫のいる風景



平成 23 年度 第 2 回益田市景観ワークショップ 飯浦町周辺の 景観要素

海



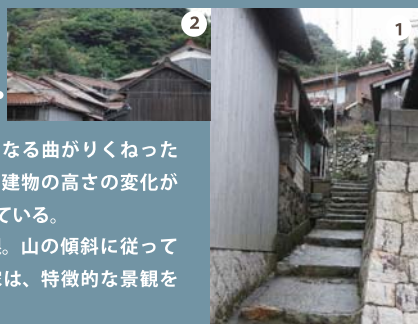
海と湾に沿って群れる赤瓦が織りなす美しい景観。

香り
音



潮や漁船の油のにおい、波音や海鳥の鳴き声など、五感で感じる景観を体験できる。

地形



- ①先に行くほど細くなる曲がりくねった階段。周辺の石積や建物の高さの変化が趣ある景観を演出している。
- ②段々になった屋根。山の傾斜に従って建てられた赤瓦の家は、特徴的な景観を創り出す。

漁船



海沿いに漁船が並ぶ景観。漁業の活気を感じる。

まち
並み



通り沿いに赤瓦の家が並ぶ迫力ある風景。

こてえ
鰻絵



多くの家で見られるこてえのデザインは、屋号が元になっている。

古墳に咲く いにしえの花

— NPO法人久城伝承文化顕彰会 —

久城伝承文化顕彰会・元副理事長 貴田 富雄さん

スクモ塚古墳周辺では夏、ピンク色の大輪の花が咲きます。今ではその花見たさに多くの人が県内外から押し寄せています。久城町にあるスクモ塚古墳は、全長百メートル、高さ七メートルの前方後円墳であり、石見ではもちろん、島根県内でも最大級の古墳として有名です。この地を治めた豪族の墓で、五世紀頃に築造されたと推定されています。

古墳の目の前にお住まいの貴田さんが、理事長他会員の皆さんと共に、島根県斐川町（現出雲市）荒神谷遺跡公園から古代ハスの小さな蓮根を譲り受けたのは十年程前のことです。種からの栽培は大変難しいと言われていましたが、その年の六月、花を咲かせることに成功しました。花は六月末から八月上旬まで咲くため、七月であれば必ず目にする事ができるそうです。

スクモ塚古墳の魅力は、古代ハスだけではなく、元々古墳は景色の良い所に造られるようで、このスクモ塚古墳から見ると益田の景色も絶景です。自然が豊かなことや、周辺が良い漁場であるため、漁火も見えます。また、ここから見る夕日も美しいです。

地元のみなさんは、出来れば古墳周辺を人が集まる公園、景観が美しい公園になれば、と期待しています。

NPO法人久城伝承文化顕彰会の会員は現在約三十名だそうで、今もなお、多くの人が、古くから愛されてきたこの景観を守り続けています。



スクモ塚古墳の上から街並みと日本海を望む



大賀ハス（古代ハス）の花

景観を 支える人たち

豊かな景観は、それらをより良くしていこうと考え、行動に移している人たちによって支えられています。益田では様々な団体がそれぞれの想い、目的で景観まちづくり活動を行っています。

菜種栽培から 地域活動へ

— 安田地域づくり協議会 —

安田地域づくり協議会事務局 福原 拓夫さん

安田地区は、新興住宅地と昔からの集落の二面を併せ持っているものの、それぞれの地域に暮らす人同士の交流が少ないことや少子高齢化、休耕田の増加が地域の課題となっていました。こういった課題を解決するために「安田地域づくり協議会」が結成されました。

まず、地区の休耕農地や荒れ地を「何とかしたい」という住民の思いから、荒れ地に菜の花を栽培する活動が始まりました。春になると、菜の花で一面黄色に染まった景色は、国道9号線を通行するドライバーや通行人に季節を感じさせ、喜ばれているそうです。このように農地が荒れないようにすることで、地域の景観を保つことに繋がっています。さらに、景観を保つことの大切さを地域の人たちにも感じてもらうため、会では様々な活動を行なっています。菜の花の開花時期には「菜の花ウォーク」や「菜の花写真コンテスト」が行われ、初夏には収穫した菜種を利用した菜種油の製造販売や料理教室などが行われています。この菜種油の収益は、次年度の菜の花栽培に充てられています。また、活動をしていく中で、菜の花栽培を中心にした別組織として「農地ネットワーク菜の花会」が立ち上げられ、活動はますます広がっているようです。

現在の「安田地域づくり協議会」では、菜の花栽培をはじめとする「景観づくり」を中心に、「健康づくり」「生きがいづくり」「地域づくり（人づくり）」という4つを軸に活動が行われるようになりました。景観をつくりあげる過程で、地域・人も育まれる…景観をつくっていくことは、人・地域をつくっていくことと大きく関係しています。



国道9号線沿いに咲く菜の花



菜の花ウォークの様子

次回の益田景観

最終号となる春号では、12月に開催された第三回景観まちづくりワークショップを特集。本年の締めくくりとしての総括と、2月に開催された景観シンポジウムについての記事を併せて掲載します。



（発行）

益田市建設部都市デザイン課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1-1

TEL：0856-31-0351

FAX：0856-31-1480

<http://www.city.masuda.lg.jp>

（制作）

近畿大学 都市計画研究室

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

<http://urbankindai.blog84.fc2.com/>